

■観光地経営の視点と実践 最新刊

観光地の持続的発展にとって、今や「観光地を経営する」という地域マネジメントの考え方が重要。本テキストは、既存観光地の現場で日々努力し、活躍されている方々が主な対象。「観光地経営」を一定の方針（ビジョン）に基づいて、観光地を構成するさまざまな経営資源、推進主体をマネジメントするための一連の組織的活動と定義し、8つの視点と10の実践例に基づいて、その考え方や展開手法を解説。当財団調査研究専門機関化50周年記念事業の一環として発刊。2014年12月発行（丸善出版）。



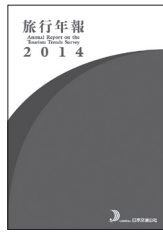
■美しい日本 旅の風光 最新刊

調査研究専門機関として50周年を迎えたことを期に、当財団が長年取り組んできた「日本における観光資源の評価に関する研究」の成果を基に監修。北海道から沖縄までをエリアごとにまとめ、風景だけではなく、伝統文化、神社仏閣、温泉、街、食、祭り、芸能など、いつまでも残しておきたい日本の大切な資源として紹介。完全英語訳付きで海外の方にも広く日本の観光資源の魅力をお伝えできる一冊。2014年5月発行（JTBパブリッシング）。



■旅行年報2014 リニューアル創刊

「旅行者動向」と一体化し、リニューアル創刊。内容を充実し、旅行者、観光産業、地域、観光政策、それぞれについて直近1年の動向を分析、出来事を総覧。訪日外国人の発地調査、都道府県別の政策アクションシート調査など新たに独自調査も増やし、引き続き当財団の研究者が分析、執筆、編集。旅行・観光の現状を多面的に一覧できる一冊。2014年10月発行。
*当財団独自調査に基づく日本人の旅行者の意識と行動を分析したレポート。



■平成26年度観光地経営講座 講義録 最新刊

観光地経営の、8つの視点、と実践。組織を見直して実行力を高める！平成26年度新規開講の「観光地経営講座」の講義録。当財団がこれまで培ってきた経験とノウハウを「観光地経営」という視点で整理したプログラムで、特に「組織・人材」に焦点を絞って開催。本書は、観光まちづくりの先進地、山梨県富士河口湖町、八ヶ岳南麓（山梨県・長野県）で活躍する方々の事例紹介から実践的な考え方やノウハウに触れ、持続可能な観光地づくりのヒントを習得できる一冊。2015年3月発行。
※当財団出版物のご注文はホームページからお願いします。
担当：公益財団法人日本交通公社 観光研究情報室
電話 03-5255-6073 <http://www.jtb.or.jp>



次号予告

●次号の特集テーマは「入山料」です。すでに取り組みが始まった富士山制度導入をめぐる議論が活発化する屋久島などをケースに、自然地域を訪れる観光客から協力金という名目で入山料を課すことの現状と課題を整理します。さらに、その意義について、受益者負担、金額の多寡による入域コントロール、利用者の権利や地域の産業振興などの観点から深掘りを試みます。

当財団からのお知らせ

「2015年度シンポジウム・セミナー開催予定」

当財団主催の今年度シンポジウム・セミナーについてご案内します。

●観光地経営講座 上期 6月

2013年12月発行の「観光地経営の視点と実践」をテキストにして、当財団がこれまで培ってきた経験とノウハウを「観光地経営」という視点で整理したプログラム。昨年度は「組織・人材」に焦点を絞って開催、今年度については現在企画中です。

●旅行動向シンポジウム 下期

当財団独自の旅行市場調査および観光政策などに関する調査の研究成果発信の場として、財団研究者とゲストスピーカーが発表する予定です。最新情報・詳細については、準備ができ次第、ホームページのインフォメーションで案内させていただきます。

当財団ホームページ URL: <http://www.jtb.or.jp> トップページ

「研究員コラムの紹介」(2014年12月～2015年2月)

各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究員コラム」に掲載した3カ月分を、紹介します。

「研究員コラム」で検索できます。

- 2333 日本の果物を外国人観光客のお土産に
—— 食料品の免税に思うこと —— (西川亮)
- 2334 若者視点からの角館とその周辺地域における観光の「考察」 (中野文彦)
- 2335 「旅行年報」のリニューアル
—— 「観光地」の動きを捉える切り口を変更しました —— (堀木美告)
- 2336 ことし一年を締めくくりにあたり
—— 2015年を雇用面から展望する —— (寺崎竜雄)
- 2337 歩いて楽しめる観光地のあり方
—— 富岡、富岡などの現状をもとに —— (梅川智也)
- 2338 観光地経営の先進地、道後温泉のまちづくりに学ぶ
—— 宮島、富岡などの現状をもとに —— (牧野博明)
- 2339 都市におけるMICE推進戦略の現状とは
—— 渡邊智彦 —— (守屋邦彦)
- 2401 観光分野におけるデジタルアーカイフ化に向けた課題
—— (渡邊智彦)

編集後記

◆経済活性化を展開するために地域が取り組む様子が分かりました。スポークである大動脈の主要道路網から分岐して、静脈として地域の道路に所在するハブとしての「道の駅」の機能が地域内と地域外に経済的なダイナミズムを生み出すことへの期待と現状を紹介しました。

◆ローカルよさ、イイモノを追求すると、グローバルに通用するモノになる。自地域固有の潜在的な価値を見いだし、育てて、地元産品として販売・流通させる場としての「道の駅」の進化が期待されます。

連載のあと

◆「あの町この町」2004年(平成16年)1月から始まった池内紀氏のシリーズが、前号224号の第60回をもって終了となりました。地図なしにマイペースで歩き、感じ、考えられたことが行間にあふれていて、町の見方いろいろ気づかされ、温かみのあるイラストにホッとしました。

◆「ホスピタリティーの手触り」2000年(平成12年)7月からおよそ15年間の山口由美氏からの原稿も82回で最終回となりました。国内海外のフィールドから角度を変えて表現されたホスピタリティ産業、観光について毎回じっくり考えさせていただけの機会となりました。

◆これまでの連載へのご寄稿に、心より感謝申し上げます。
◆次号からは、当財団専門委員による連載を企画中です。
観光文化編集室メールアドレス：
kankouunka@jtb.or.jp